

令和2年度「富岳」試行的利用及び 令和3年度「富岳」一般利用の公募について

2020(令和2)年10月14日

登録施設利用促進機関

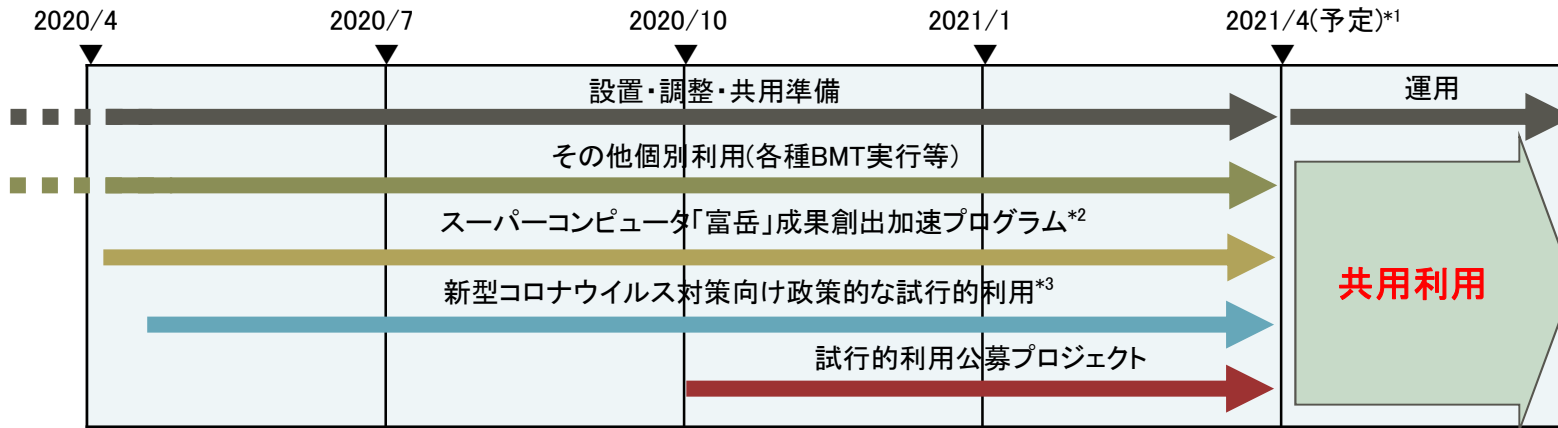
一般財団法人高度情報科学研究機構(RIST)



「富岳」の整備状況と計算資源

■ スーパーコンピュータ「富岳」の状況

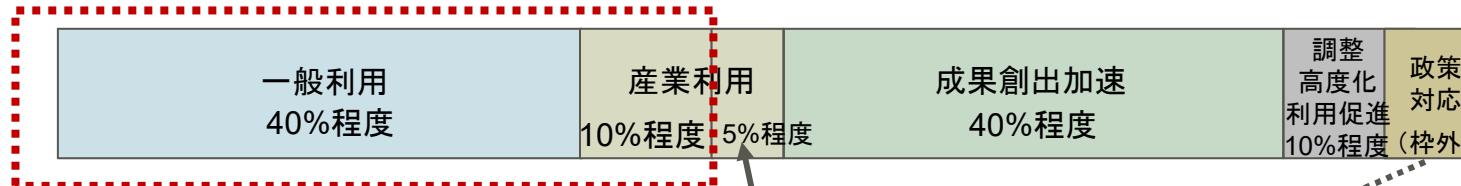
- ◆ 理研、富士通により、令和3年度中の共用開始に向けた設置・調整作業、ベンチマークプログラム実行などが実施中。
- ◆ 上記に加え、共用開始に先行するシステム調整段階（共用前評価環境）の利用として、下図のプロジェクトを実施中。



【注】 *1: 本募集では「富岳」の共用開始を2021年4月としているが、「富岳」整備状況及び令和3年度予算状況により変わる可能性あり。
*2: https://www.hpci-office.jp/materials/adoptionlist2020_53.pdf

*3: 文科省が理研の協力の下緊急的に実施。
https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2020/mext_00188.html
<https://www.r-ccs.riken.jp/library/topics/fugaku-coronavirus.html>

■ 「富岳」計算資源の利用計画 (R.2.7.17 文科省通達「スーパーコンピュータ「富岳」利活用促進の基本方針」より)



今回の「富岳」の募集
(「富岳」の50%程度の資源量)

Society 5.0
推進枠
(仮称)*

*: 政策対応枠(枠外)より5%程度をSociety 5.0推進枠(仮称)として検討。

「富岳」試行的利用課題募集の概要

■ 募集の目的

- ◆ 「富岳」の共用前評価環境において、「富岳」のシステム調整段階における試行的利用として、利用者拡大を促進する観点から、一般の利用者向けの公募を実施する。
- ◆ 正式な共用開始以降の「富岳」の利用に向けた計画があることを確認し、早期の利用立ち上げ、成果の創出を狙うとともに、ソフトウェアの動作確認、チューニング等を目的とした利用を促進することで、「富岳」の利用環境向上にフィードバックする。

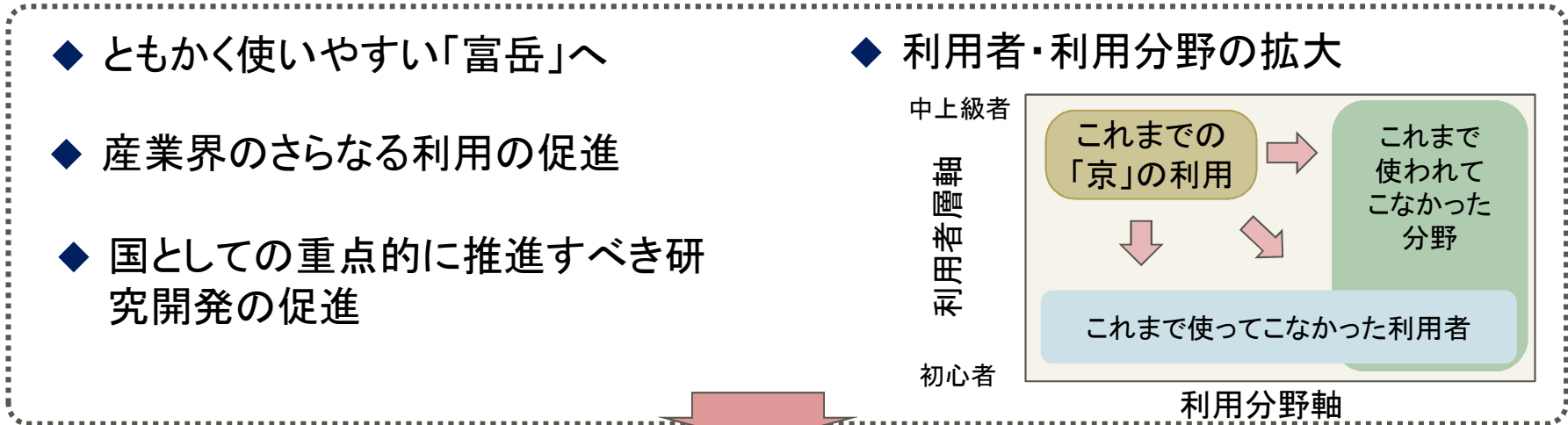
■ 募集の概要

	早期利用課題	利用準備課題
最大申請可能資源量	最大70万NH	最大10万NH
採択課題数	30課題（選定済）	40課題程度*
利用条件	「富岳」の利用に向けた計画があり、科学的あるいは社会的にインパクトのある成果創出が見込まれる課題であること。	「富岳」利用の検討および準備（ソフトウェアの動作確認、移植、チューニング、本格的な利用に向けてのテストラン等）を行う課題であること。
応募資格	<ul style="list-style-type: none"> ・学術界・産業界等、所属を問わず広く申請可能とする。 ・「富岳」成果創出加速プログラムに採択された課題は除く。 	
利用期間	令和2年10月1日（予定）から令和3年3月末までの最長6ヶ月間	
成果公開・利用報告書の提出	論文発表等による成果公開義務はなし。課題終了後60日以内に利用報告書を提出すること。利用報告書は、1～数ページ程度で記入いただく簡素なものとする予定。未提出によるペナルティ適用はしない。	
選定	利用研究課題の審査は「特定高速電子計算機施設の利用研究課題選定に関する基本的考え方」を準用し、応募資格、利用条件に基づき、登録機関が専門家の意見を参考に行う。	登録機関が応募資格、利用条件に基づき速やかに利用研究課題の審査を行う。

*：提供可能資源量が大幅に拡大されるため、採択可能な課題数は拡大できる見込み。

「富岳」の公募制度におけるポイント(一般利用、産業利用)

■ 「富岳」のパワーを最大限効果的に活用し、その成果を社会に還元するため、今回の公募制度は以下のポイントに重点を置いて設定。



「富岳」の公募制度の主なポイント

すぐに・簡単に使え、ステップアップや若手研究者の応援を狙う課題と十分な資源量の設定 (全体の5%程度)

産業利用枠(10%程度)を設定

選定で優位性を持たせる重点分野を設定 (感染症対策、次世代コンピューティング基盤技術)

有償の付加価値サービスの充実*

*: 付加価値サービスのメニュー詳細は現在検討中

さらに

中小企業向け支援施策も検討

「富岳」の特色を生かした使いやすい利用環境を整備

「富岳」の公募制度におけるポイントと課題種類

■ 「富岳」の課題種類

一般向け

主としてアカデミアによる利用を想定した課題種類
(計算資源の配分: 40%程度)

産業界向け

産業界による利用を想定した課題種類
(計算資源の配分: 10%程度)

資源量の上限(年間)

Lクラス	1000万NH ^{(*)1}
Mクラス	500万NH
Sクラス	100万NH
SSクラス	5万NH

*1: 産業課題については800万NH

定期的(年2回)に募集する課題

- 一般課題
- 若手課題

随時募集する課題

- 一般機動的課題
- 若手機動的課題
- 一般試行課題

費用を支払い付加価値サービスを受ける課題

- 一般有償課題
- 一般試行有償課題

定期的(年2回)に募集する課題

- 産業課題

随時募集する課題

- 産業機動的課題
- 産業試行課題

費用を支払い付加価値サービスを受ける課題

- 産業有償課題
- 産業試行有償課題

「富岳」の公募制度の主なポイント

M/Lクラス
(若手課題はMクラスのみ)

今回募集する課題種類
定期的(年2回)に募集する課題で「富岳」のパワーを本格的に利用。一般課題には重点分野^{(*)2}を設定。

*2: 国として重点的に推進する研究開発分野を選定委員会に置いて年度ごとに設定。令和3年度は、「感染症対策に資する研究開発」と「次世代コンピューティングに資する基盤研究開発」

Sクラス、
審査は年4回

SSクラス

S/M/Lクラス、
複数年利用可能

SSクラス

令和3年1Q募集開始
随時応募を受け付け、短期間で審査することにより、タイムリーに「富岳」を利用。本格的利用へのステップアップを期待。

M/Lクラス

Sクラス、
審査は年4回

SSクラス

令和3年1Q募集開始
付加価値サービス^{(*)3}を有償で受けることができる課題。

S/M/Lクラス、
複数年利用可能

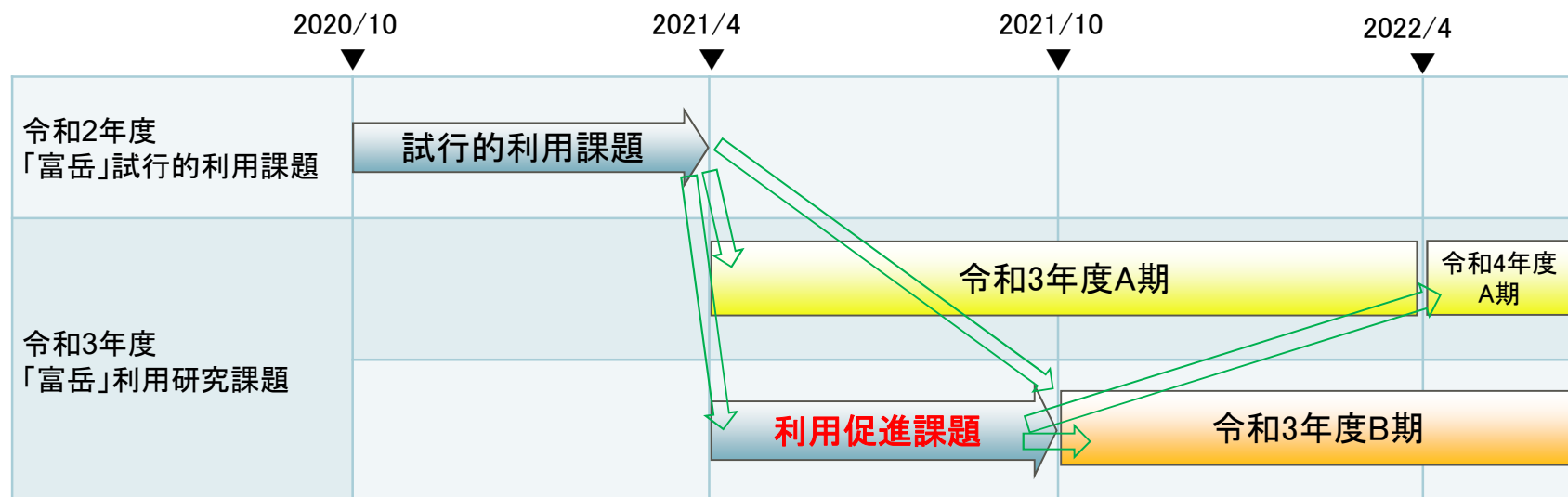
SSクラス

*3: 付加価値サービスのメニュー詳細は現在検討中

令和3年度募集における「富岳」利用促進課題

■ 「富岳」利用促進課題募集の概要

- ◆ 「富岳」が共用開始直後であることから、令和2年度の「富岳」試行的利用課題の募集に引き続き、「富岳」を利用した早期の研究の立ち上がりや成果の創出のため、令和3年度のB期募集または次年度のA期募集へつながる課題として、利用期間が半年の「富岳」利用促進課題として、今回に限り募集する。
- ◆ 利用報告書の提出のみとし、成果公開の義務としない。
- ◆ 資源量は令和3年度上期(4～9月期)の資源配分において、B期分に相当する資源とする。



全体スケジュール

